

し研究を進めた。

技術分野では、「エネルギー変換の技術」という単元で検証授業を行った。技術が社会や環境に影響を与えているか生徒がより理解を深められるよう生徒の生活に身近な「エネルギー」の利用その仕方と問題点に関する学習を用いて〔資料1〕の手立てで授業を進めた。

①自分の生活と周囲のかかわりを理解し、家庭や社会の一員として自分の在り方を考えられる題材の工夫を行う。
 ②協働活動を通して、様々な考え方を知ることにより思考を深めることができる学習内容の工夫を行う。

〔資料1〕 授業の手立て

〔資料1〕①に関しては、自分の生活を見直し、いかに無駄なエネルギーを削減し、二酸化炭素を削減できるか「カーボンプライシング」という方法で検証した。カーボンプライシングとは、社会や生活から出る有害な炭素を数値化し、減らしていく取り組みである。この取り組みを利用し、自分が社会で果たせることは何かを考え、取り組んだ結果も数値として検証できると考えた。〔資料1〕の②に関しては、ICT機器を取り入れ、わからない生徒へ映像を繰り返し見返すことができるように工夫した。また生徒の意見を全体で共有できるようにワークシートを工夫した。

課題②	「プラス面」	「マイナス面」
	身軽に行動ができて、 両足、 かたはらな。 上記をおまえたあなたの意見	兼用による汎用性がある。 個人情報が漏れやすくない。
	現実よりもはるかにのびのびと検証は行いたいよにはなって 便利だと思えます。その点、費用が安く抑えられるので企業を信頼 するに決まっています。今後、検証して活用したいと思えます。	

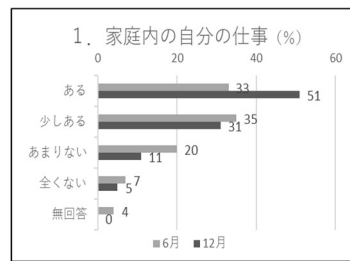
〔資料2〕 ワークシートのまとめ

家庭分野では、令和2年度は「私たちと家族・家庭と地域」という単元で検証授業を行った。自分が家族・家庭の機能を果たすことによって支えられていることや、家庭生活は地域の活動によって支えられていることに気付き、家庭や地域の一員として自分ができることを考えさせた。令和3年度はそれを踏まえ、学校で学んだことを実際に家庭で多面的に考えて見通しを持って実践することを目標にした。2年生の食の分野で1年時の防災の学習を取り入れた。防災食の調理実習や実習での気づきを共有することによって、主体的に実践するきっかけになると考えた。

2 2年間を通しての成果と課題

(1) 成果

令和2年度の研究後の意識調査〔資料2〕を比較すると、「家庭内での自分の仕事があるか」の問いに対し、「ある」と答えた生徒が33%から51%に増加した【資料3】。また、「地域の一員としてできることがあるか」の問いに対し「とても思う」「少し思う」ともに数%だが増加していた。家庭や社会のなかでの自分の役割を理解し、積極的に参加していく力が育ったと考えられる。



〔資料3〕 意識調査の比較

令和3年度の技術分野においては、2年生を対象に10月と1月で行った実態調査で「学習した内容を生かし生活や社会の問題点に関心を持つことができた」の問いに対し、肯定的に答えた生徒が48%から61%に増加した。「生活や社会で自分の役割を理解し、生活がより豊かになるよう考え、行動できた」の問いに対し、肯定的に答えた生徒が20%から53%に増加した。このことから社会や家庭で自分の役割について考え、より豊かになるよう将来を見て行動できる力が養えたと考える。また、クラスで出た意見を共有することで課題に対しての理解を深め実践しようとする生徒の姿が見られた。キャリアプランニング能力の育成とは、将来働くための計画や見通しを考える学習というイメージが強かったが、生活をより良く改善するためにどうすればよいかや自分がどう成長していきたいかを考える一端となった。